I am sorry, but there is no text provided in the "Input" section for me to proofread and correct. Please provide the text so that I can perform the necessary corrections and provide the output.  
大丈夫そうですね。はい、じゃあ、改めまして、よろしくお願いいたします。お願いします。はい。あの、非常に初期の方から、多分いろいろツイッターで確か、なんか先週末実施させていただいたPikano Spaceにもなんか来られてて、いろいろ遊び合えていただいて、なんかすごいいい感じになって、ありがとうございます、思っております。実際、本日はですね、そこら辺はどういうところを感じられて使っているのかとか、お伝えできればなというふうに思っております。よろしくお願いします。はい、お願いします。はい。簡単な流れから説明するとですね、3部構成は3つに分かれて、いろいろ聞いていきたいなと思います。一番最初は、Value Discoveryを使う前の、どういう課題感を持っていて、それまでどうしてたのかって話を伺わさせて、その後に、Value Discoveryを使って、どうだったのか聞いていきたいと思います。最後に、この今、Value Discovery、今の形で提供しているんですけど、これをですね、今後機能開発進めていって、より使いにしていきたいかなと思っています。今、こういうことを考えているんですけど、どうですかって、コンセプトテストをさせていただきたいかなと思います。この3部構成で、本日いろいろお話。  
を伺わさせていただきたいなと思っています。よろしくお願いします。はい、ではですね。まず、ちょっと早速最初の方の質問を聞いていきたいなと思うんですけど、これはアイスブレイクガテラですね。ちょっと聞いてみたいなと思うんですけど、このサービスどのタイミングで、どういうきっかけで知られたのかなみたいなのって教えてもらってもいいですか？そうですよね。もともと早川さんのTwitterを拝見させていただいていて、おそらく多分その流れでPMDAOの方のDiscordですね、ここからのなんですけど、多分ツイートPMDAOさんのアカウントか早川さんのアカウントか忘れたんですけどのツイートを見て、多分前後くらいでチャットGPTみたいなのが広がってきた中で、こういう取り組みやってるんだみたいなので使わせていただいたのが最初ですね。素晴らしい、ちょうど初期の方の方からやれてるんだかな。そうですね、多分そうだと思います。まさにタイミングスタートタイムのGPTが公開されて、これ、サービス作れるよねって言って、約1週間ぐらいで最初の構想が立ち上がってから作り始めて、実際に多分クローズベータで皆さんに公開し始めた。多分1週間後ぐらいにちょうど公開したんで、多分2月の19。  
日とかそうですね。僕、多分登録して数日、多分いただいた中で一番最初に使ったのが、多分2月の20何日とかだった気がします。はいはいはい、段階的にそこら辺何日かに1回、数百名ずつぐらい、そうですよね。段階的に出していってました。なるほど、結構初期からちょっと期待して使っていただいたというところ、ありがとうございます。ちょっと、そこからですね、使う前どうだったのかですか、っていう話に入っていきたいんですけども。はい、このLulius Companyの一番最初のランニングページとかに書いてあるように、ツールって、仮説を立ったり、アイデアを具体化するときに使うツールかな、というのですけど、これまでValue Discoveryを使う前っていうのは、どうやってアイデアを作ったり、仮説を立たせたりしてましたか、というところをちょっと伺ってもいいですか？はい、そうですよね。この前で言うと、本当になんて言うんでしょう。おそらく、Value Discoveryでモデリングされているような項目を、手書きというか力技でいくつか、そのフレームに当てはめてやってた感じではありますが、一応、多分、ここの部分を説明するときに、おそらく、僕の生い立ちというか、業務のあれをお伝えした方がいいかなと思うんですけど、一応、今。  
PMをやらせていただいているんで、今のところPMをやらせていただいているんですが、1.5年前くらいに現職の方で多数を立ち上げることになったんですよね。我々そこの今の現職ってずっとコンサルとかコーチングサービスとか、割とその労働主役型のサービスとかをやっていたりする中で、かつクライアントさんのスタッフさんのスタッフさんに対してカスタマイズしていくようなものをやってたんで、プロダクト的な思考を持っている人が社員にいなかったんですよね。そもそも私でSaaSを立ち上げるってなったときに、やっぱりそういう人、いわゆるPM的な人を置かなきゃいけないってなって、一応私が手を挙げてやらせていただいた感じです。役割的には、今まだスタートアップなんで、代表がある人のGMの役割をして、事業開発の役割をして、私がそのプロダクトを作るみたいな話。あの、すすめ方をしてたんですが、それでもやっぱりなんて言うんでしょう、何もさらに情報がないっていう感じだったので、昔としても、例えばプロダクトマネジメントのすべてとか本とかあれとか、あとは社外の今イケイケのSaaSのPMの人とかにミーティーとかで連絡して助言を、今こういう状態なんですけど、本当になんかに知った激励をいただきながらやってた感。  
それでもまだまだ自分の中で体系ができてないなとか再現性がないなと思ったんですよね再現性がないということはイコール知識がちゃんと身についてないことと僕は解釈しててなんて言うんでしょう今のSaaSって原則のSaaSって一回クローズしちゃったんで私としては一回リファレクタリングというか振り返りをずっとしてたんですよねこれはある種失敗を再現させないためっていうのと次になんかちゃんとやろうということでやったんですけどじゃあどういう風にちゃんと知識だって体系だって自分の頭の中整理すればいいんだろうなということをちょうど年末くらいに悩んでたんですよねでここに出会ったというようななるほどいくつか自分の中でしっくりくる手法はあったんですとはいえまだまだ日本においてPMみたいなスタンダードってあんまないと思うんですよねプロダクト作りにおいて他の職種と違ってセールスだったらこうとかマーケだったらこうみたいなのってあると思うんですPMってなくて私の中で